明日の空へ SDGs―JALの取り組み―／第127回

大切な人を守りたいから

乳がんキャンペーン

日本で、世界でピンク色の気付きを

本日ご利用いただいた空港の電光掲示板やカウンターで、または機内で、「ピンク色」を目にした記憶はおありでしょうか？ 機内の窓から、普段は見慣れないピンクのコンテナを見かけた方もいらっしゃるかもしれません。

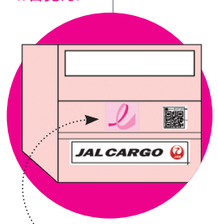
JALグループでは、乳がんのない世界を目指し、乳がんの正しい知識と早期発見を啓発する「乳がんキャンペーン」を2004年度から実施しています。そのため、啓発強化月間である10月になると、空港や機内がキャンペーンのシンボルカラーであるピンク色に染まるのです。昨年は国内26、海外14の空港でキャンペーン装飾を実施。ホノルルのダニエル・K・イノウエ国際空港ではJAL便にご搭乗の皆さまにピンクの折り鶴をお渡し、デリーのインディラ・ガンジー国際空港ではスタッフがピンク色のサリーに身を包むなど、各地で工夫を凝らしてお客さまをお迎えしました。今年も10月は運航乗務員と客室乗務員はピンクリボンバッジを着用、さらに運航乗務員ら自らの発案で、有志がピンク色の肩章を着けて乗務にあたります。ご利用の際に注目してみてください。

早期発見で救える命がある

女性の罹患率が最も高い「がん」といわれ、30代～50代に発症しやすい乳がん。その検査受診率向上は、女性が多く働くJALグループ各社の重要な健康課題でもあります。JALグループが「健康経営」を推進していく中で掲げている「JAL Wellness 2025指標」では、女性社員（18歳以上）の乳がん検査受診率70%以上、配偶者（35歳以上）とOBの検査受診率40%以上を目標とし、その実現に向けて社内での啓発活動や女性の健康セミナーを実施しています。冒頭にご紹介したピンクのコンテナは、JALグランドサービスの女性社員が自部署における乳がん検査受診率が低いことを受けて発案し、今年10月から国内線の貨物輸送に導入するものです。空港で働く社員だけではなく、「ピンクリボンコンテナ」を目にしたすべての人に、乳がんの早期発見の重要性について訴えることができれば……との願いが込められています。

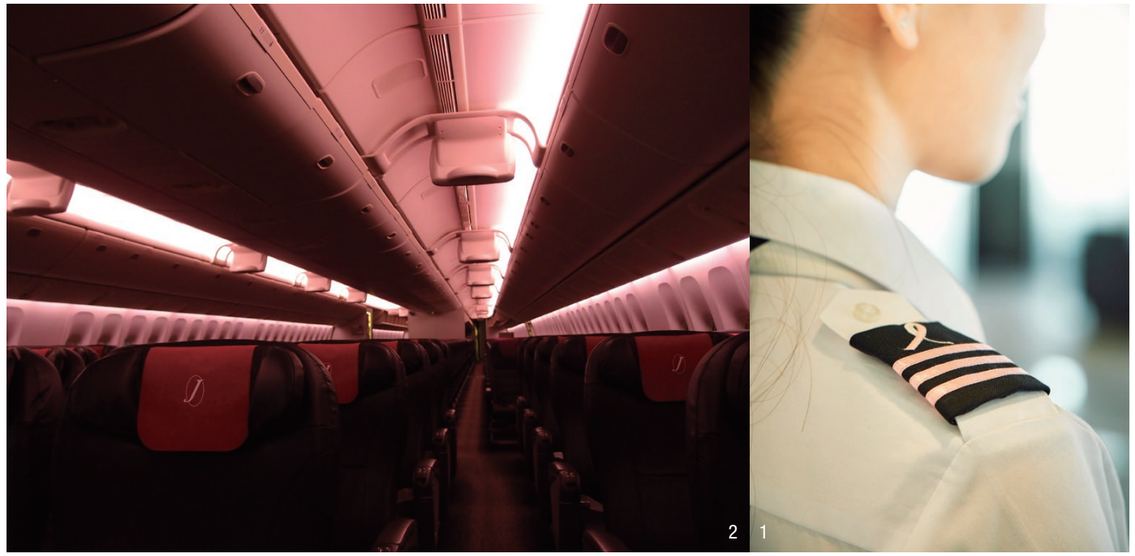
乳がんキャンペーンを担当している献グループの磯川沙希は、身内が10年ほど前に受診した初めての乳がん検診で乳がんが発覚、すぐに治療を受けられたために救われたと話します。「早く見つけて治療をすれば、命が救われる可能性がある。検診や早期発見の大切さを痛感しました」（磯川）。乳がんの早期発見のためには、2年に1度は乳腺科、乳腺外科や人間ドックなどの検診専門施設で定期検診を受けることが推奨されています。定期検診を受けることが、自分自身を、そして大切な人の笑顔を守ることにつながるのです。

JALグループはこれからも、乳がんのない世界を目指す活動を世界中の仲間と共に続けてまいります。Ⓢ



ピンクリボンコンテナがお目見え！

コンテナの装飾には3M社が開発したバイオマス素材のグラフィックフィルムを使用。



1.ピンク色の肩章、大空へ！ 2.機内を染める「SAKURA」や「MOMO」の照明。3.キャンペーンに賛同するサントリーフラワーズから無償提供いただいたプリンセチアを羽田空港と有楽町JALプラザに設置。4.羽田空港の電光掲示板がキャンペーンメッセージのピンク色に。5.乗務員の他、主要空港スタッフもバッジを着用。6.ダニエル.K.イノウエ国際空港で搭乗客にお渡しした折り鶴とお守り。7.インディラ・ガンジー国際空港のスタッフ。

今回のテーマに該当する目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国（193カ国）により「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。